令和８年１１月２８日（月）創立８０周年記念式典

校歌がつなぐ　－過去から今へ、そして未来へ－

（前略）本校は昭和２２年３月、戦後の新たな教育制度のもと、新制中学校として開校して以来、８０年間の歩みを進めてまいりました。その間、２万７０００名を超える卒業生が、「文武両道」の精神をよく受け継ぎ、現在の富士見中学校を創りあげてきました。この８０周年の節目を迎えるのにあたりましては、歴代 PTA 会長の中でも有志の皆様が小島正泰実行委員長様を中心とした実行委員会を立ち上げてくださいました。そして、スローガン「ずっとつながっている。～過去から今へ、そして未来へ～」を掲げ、本日の記念式典の企画運営にとどまらず、昨年度３月の記念イベント「全力フェス」から今年度３月に予定している記念イベントまでの１年間を通した取組を進めてくださっています。それは、生徒の皆さんが、富士見中学校の歴史を振り返り、受け継がれてきた伝統を実感するとともに、未来に向けた展望を持つための十分な時間が必要であると考えたからです。生徒の皆さんからも、加藤愛永実行委員長を中心とする実行委員会が自ずと立ち上がり、主体的に取組を推進してくれたことは、この事業の趣旨からも大変喜ばしいことであります。

さて、昭和から平成、令和へと移ろいゆく時代の中で、８０年もの間、変わることなくこの学び舎にあり続けたものがあります。その１つが「校歌」です。「花咲き集う我が学舎の」で歌い始める校歌を、昭和・平成の時代を生きた卒業生の皆様も、そして今ここに集う生徒たちも、同じように口ずさんできました。本日ご列席の歴代校長先生方、PTA 会長の皆様も、幾度となくこの校歌に耳を傾け、声を合わせてこられたことと思います。生まれた時代も歩んできた道も異なる人々が、１つの歌で同じ思いを分かち合うことができます。校歌は、８０年もの歳月を「つなぐ」役割を果たしているように感じます。１６年前の平成２２年の夏、本校の校歌を作詞した新井（旧姓：伊藤）敏雄さんのご自宅を、生徒会本部役員が訪問し、お話を伺った記録が残っています。学区内にお住いの新井さんが高校を卒業してすぐの頃、「富士見中学校の校歌の歌詞募集」の広告を見て、応募したのだそうです。新井さんは歌詞の一つ一つの言葉に思いを込めています。特に「明るく強く」という言葉を大切にしているとお話になっています。そういえば、１番から３番まで繰り返し使われていることがわかります。新井さんは当時の生徒に対して次のように語りかけてくださいました。「中学校を卒業した後、挫折もすればつらい時もあるはずです。それでも、先生や友達との絆に感謝して『明るく強く』進んでいってほしいです」
新井さんは、このお話をされた約半年後に８０歳でご逝去されました。東日本大震災が発生した前日です。そのことを私が知ったのは、つい先日のことでした。新井さんの奥様と娘さんにお話を伺う機会があったからです。奥様は新井さんから、作詞をした当時の思い出話をよく聞いたと教えてくださいました。熊谷空襲で焼け野原が広がる中、富士山がよく見えたこと、焼け跡の木々から芽吹いた緑色が美しかったこと…、新井さんは、この校歌を「人生最大の名誉」であると大切にされていたそうです。奥様もそんな旦那様とドライブの時などに、本校の校歌を一緒に歌われたのだとお話くださいました。その時の、自作の歌詞カードを見せていただいたのですが、色あせ使い込まれたあとがありました。ご夫妻の効果に対する思いのあまりの深さに、その歌詞カードを見ながら涙があふれてきてしまいました。本日の式典第２部の最後には、会場の皆様とともに校歌を合唱します。８０年の歩みと、本校に寄せられた多くの方々の思いに心を重ねながら、声を合わせていただければと思います。生徒の皆さんは、未来に向かって、明るく強く、そして富士見中生としての誇りを胸に、高らかに歌い上げてください。（後略）

熊谷市立富士見中学校長　　田沼良宣